

## 2020 年度 Winter School

長谷川水輝

2021 年 2 月 17 日から 3 月 3 日にかけて約 2 週間行われた Winter School に参加しました。本来であれば日本に留学生をお迎えして各地を実際に訪問しながら実施されるのですが、今年度は残念ながら新型コロナウイルスの影響で留学生が来日することができませんでした。そのためすべての講義がオンライン上で行われました。オンラインでの開催は初めてでしたが、オンライン上でも有意義な国際交流の時間となりました。

「東北・中部・北海道の自然環境と雪の関わりについて」のテーマのもとで私たち山形大学の学生が実際に各地を訪れて撮影したビデオを留学生に配信し、それをもとに議論が行われました。留学生と一緒に訪問することができなかったのは非常に残念ですが、それでも私たちはより良い映像をお届けできるように最善を尽くしました。また、同時に各国の留学生は日本や自国の地理、歴史、観光など各々に与えられた様々なテーマについてのプレゼンテーションを行いました。各国の様々な情報を共有することで国際理解が高まり、お互いに知識を高め合うことができました。

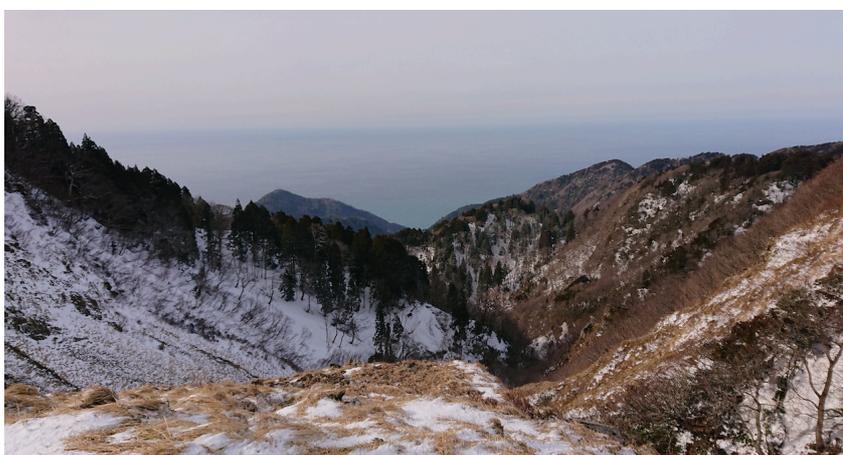
今年度の Winter School の参加者は山形大学の教員・学生に加え、ドイツ、スペイン、イタリア、ペルーの各大学からの教員・学生でした。オンラインでの交流で特に印象的だったことは各国の時差です。日本時間 17 時から講義が始まるとすればヨーロッパは朝 9 時、ペルーは深夜 3 時からの開始となり、それぞれの国で最適な時間を合わせることは不可能でした。ある国が日中の活動的な時間なのに対し、他の国では早起きを強いられる時間で、これはオンラインだからこそ生じた困難な点でした。

各国がコロナに苦しめられている状況で海外への渡航はもちろんのこと、国内の移動でさえも自由にできなかったのですが、そんな状況の中でもオンラインを通じて世界の人々と交流できたのは貴重にありがたい機会でした。実際に対面で話すことは叶いませんでしたが、コミュニケーションツールを有効的に使いながら各国の留学生と繋がることができました。特に、最終日に行われた最終プレゼンテーションでは様々な国籍の学生がグループに分かれて資料を作成し最終日の発表会を目指したので、グループのメンバーと密に連絡を取り合

うことが求められました。国籍が異なる各国の学生が各グループに割り振られて協力し合ったので、自国にいながらも国際交流をすることができました。

今回の Winter School を通して、オンライン上であったとしてもやり方次第で国際交流を活発に行うことは可能であると実感しました。それでもやはり国際交流の醍醐味は異国に実際に訪問して、または自国に海外の方をお招きして、面と向かってコミュニケーションをとり合いながら絆を深めることにあるように感じました。コロナが終息して本来あるべき形での国際交流が再開できる日々が来ることを願っています。

<Winter School らしく雪の情景をビデオでお届けしました>



<オンライン講義の様子>

